

令和4年度 第2回 にじバス協議会・
小平市コミュニティタクシーを考える会（合同開催）報告

- ▶ 開催日時：令和4年7月26日（火）14時～15時30分
- ▶ 開催場所：小平市役所 5階 502会議室
- ▶ 出席人数：・にじバス協議会……………4人（欠席4人）
 - ・コミュニティタクシーを考える会……………6人（欠席8人）
 - ・傍聴…なし

1 挨拶・自己紹介・進行役の選出

出席者の挨拶及び自己紹介を行い、進行役に小平商工会 森谷事務局長を選出

2 「（仮称）小平市の地域公共交通の基本方針」策定の基本方針について

（資料1-①）（資料1-②）

3 基本方針の策定に係る「市民の意識・実態調査」について

（資料2-①）（資料2-②）

○公共交通課から資料に基づき説明

◆ 質疑等

・ヒアリング調査はコミュニティバスやコミュニティタクシーの利用者に対して行うということだが、アンケート調査は利用者には行わないのか。

→（公共交通課）アンケート調査は広く一般的な移動実態やニーズ等について把握するため、利用者以外に対しても行い、質問項目も一般的に答えられるようにしている。

・ヒアリング調査を利用者にする際は、誰がどのように行うのか。

→（公共交通課）ヒアリング調査については、利用の多い停留所で待っている方に対し、職員がヒアリング調査を行う。アンケート調査は利用者も含めて調査し、可能であれば自治会を通じて配布などをお願いしたい。

・利用者に対してのアンケート調査は行うか。

→（公共交通課）毎年2～3月にかけて「ぶるべー号利用者アンケート調査」を行ってきたが、車両の座席の向きが変更したことにより、アンケート調査に答えることが難しくなった。そのため、ヒアリング調査に切り替えた方が良いと判断した。

・アンケート調査の実施方法の中で、自治会や地域活動団体に用紙を配付するということが、にじバス協議会や考える会のメンバーにお願いするということがか。

→（公共交通課）自治会を通して、アンケート調査への協力が可能か、やり方として、班長のみであれば配布が可能であるとか、アンケート調査は協力できないが、自治会の集まりがあった時に、公共交通課がヒアリング調査に何う形であれば協力ができるであるとかを教えてください。

・学園東町自治会は可能である。別件でアンケート調査を実施した際も、1000枚配布して、

500枚回収したが、期間として1か月は回収までかかる。第3土曜日に配布し、翌々月の第3土曜日に回収する流れになる。

→(公共交通課)にじバス協議会や考える会でいただいた意見を踏まえ、庁内の検討委員会で設問項目を決定し実施するため、9月から1か月程度の実施を予定している。

・松ヶ丘団地自治会では、毎月常任委員会を開催し、次の常任委員会で回収するという流れになる。

→(公共交通課)実施の時期はある程度、各自治会の条件に合わせながら行うことができる。

・学園西町会は前回のアンケート調査で、役員や班長しか回収ができなかったため、50部程度の回収であったが協力したい。ただ、紙ベースのアンケート調査よりも、QRコード等を利用して、インターネットを利用した回答を行えないか。QRコードにアクセスするような回覧は確実にできる。

→(公共交通課)アンケート調査は、インターネットを利用した回答も準備している。アンケート調査用紙の下部にQRコードを添付するなど、回収率を上げる取組を行っていく。

・アンケート調査の対象人数の想定は。

→(公共交通課)対象は協力いただける自治会数によるが、最低1000枚、ヒアリング調査は100人程度を想定している。

・小川・栄町コミュニティバスの会も是非協力したい。

・昭和病院は、QRコードのついたチラシを掲示するような形で協力したい。

・新東京自動車教習所もQRコードのついたチラシを掲示するような形で協力が可能だ。

→(公共交通課)依頼等について、後日調整させていただきたい。また、コミュニティタクシーの運行事業者へのヒアリング調査についても別途実施させていただきたい。

・アンケート調査で年齢層を聞くべきだ。

→(公共交通課)資料に記載はしていないが、年齢や性別、住んでいる地域を調査する予定である。

→(公共交通課)自治会以外のアンケート調査配布先等があれば意見を聞きたい。

・自治会が高齢者が多いため、若い方の意見を取り入れる場として、学校はどうか

→(公共交通課)全員に調査は難しいが、役員や青少年対策地区委員会に依頼することが考えられる。

・事業者対象ということであれば、商工会も協力が可能。

→(公共交通課)具体的な内容については個別に調整させていただきたい。

4 情報交換・意見交換

○公共交通課から資料に基づき説明

◆ 質疑等

- ・ファミリー割引(コミュニティバス)の日は子どもの利用が増え、子どもが座席に座り、高齢者が座れないので、呼びかけやステッカーを貼るなど、どうにかできないか。
また、シルバーパスが使えるようにならないか。

→（公共交通課）ファミリー割引が定着してきて、利用が伸びてきているため、高齢者が座れない事態になっていると考えている。

シルバーパスについては、東京バス協会の事業に対し、東京都が補助金を出している制度である。しかし、コミュニティバスに関しては、自治体の財政支援を既に受けて運行しており、それに対しては、東京都の補助金の対象外である。よって、コミュニティバスでシルバーパスを導入すると、全額市が負担することになり、路線バスと同等の運賃設定をしている自治体以外は導入していない。

・東京都以外でもシルバーパスを導入している自治体はあるのか

→（公共交通課）東京都は、東京都シルバーパス条例に基づき行っているが、他の都道府県でも似たような制度がある場合がある。

・電車やバスでみられるような、車体にラッピングを行う広告は可能か。

→（公共交通課）車体のラッピングは、近隣市では東村山市で行っている。小平市のコミュニティバスについては、行政のPRのみで、広告収入を得るためのラッピングは行っていない。しかし、ラッピング収入について今後検討することは可能である。

・（運行事業者）コミュニティタクシーについては、駅前周辺以外は基本細い住宅街の道を通るため、広告料に見合う効果があるかは疑問である。

・サクスクーポンの利用頻度等は把握しているか。

→（公共交通課）利用実態のフィードバックは行っていないが、サクスクーポン自体の利用はかなり少ないと考える。利用頻度等については、10月以降の更新に合わせ、協力をいただける店舗に確認したいと思う。

・サクスクーポンの新規協力店を探すことは商工会の役割でもありと考えているが、利用実態によって参加いただけるかが変わってくるため、もし可能であれば教えていただきたい。

・JRなどで行っている交通系ICカードで10回乗車すると1回分運賃が帰ってくるというサービスがあるが、コミュニティバスでの導入は可能か。

→（公共交通課）「バス得」サービスという制度で、交通系ICカードの普及啓発のため、バス事業者が負担して行っていたが、開始から13年が経過し、ICカードの普及・促進という当初の目的を達したことから、令和3年の2月頃から順次、バス事業者で廃止している。しかし、ICカードではないが、回数乗車券については、1回分お得に乗車できるサービスがある。

・回数乗車券等を交通系ICカードに入れられると、もっと手軽に利用できると考えた。

・（運行事業者）コミュニティタクシーの利用者は8割程度戻ってきていて、朝夕の利用人数が増えると追走が増え、経費が掛かることと、乗務員を絶えず待機させる必要があることが心配である。

・自動車教習所の主な入所対象が学生なため、車内広告や看板を見ることは少なく、宣伝方法を紙媒体からWEB媒体に切り替えている。車両のラッピングについては、すぐに目に留まるものということで行っている。見ていただくことにより、若い世代に認知していただき、教習所に来ていただくために、1から認知活動に取り組んだ。

武蔵村山市のコミュニティバスの車両のラッピングについても企業が費用負担をしている。地域を絞り集客したい企業にとっては、コミュニティバスやコミュニティタクシーのラッピング

は有効であると考え。コミュニティタクシーについては、大型のバスよりもラッピング費用が少ないため、検討の余地がある企業も考えられる。

アンケート調査については、QRコードを利用することで若年層の意見が集めやすくなると考える。

・バス停留所に広告等を貼るのはどうか。

→（公共交通課）利用の多いバス停留所にサンクスクーポンを印刷し、周知している。その他の停留所も必要に応じて順次対応する。

5 バスとタクシーのひろば in 小平2022について（報告）

○公共交通課から説明

◆ 質疑等

・感染者が出た等の報告はあるか。

→（公共交通課）野外でのイベントということもあり、そのような報告はない。

6 その他

○公共交通課から説明

◆ 質疑なし

《今後の予定》

・次回の開催は、基本方針の策定に係る「市民の意識・実態調査」の結果報告をするため、年明けを予定している。

・基本方針の策定に係る「市民の意識・実態調査」の1つである、ワークショップを10月、11月に予定しているため、参加について声を掛けさせていただく。

また、アンケート調査にご協力いただける自治会等については、別途調整させていただく。